

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093700070		
法人名	社会福祉法人 グリーンコープ		
事業所名	グリーンコープグループホーム那珂川・和(のどか)		
所在地	福岡県筑紫郡那珂川町片縄北3丁目16-18 2F		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果確定日	平成27年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○社会福祉法人グリーンコープの地域福祉の理念を基本に 利用者さんの生きて来られた人生に寄り添い『共に過ごし学び支えあう』としています。 ○利用者 6名のうち5名の方が 同じ施設内の小規模多機能ホームから移行の方です。小規模の方と一緒に過ごすことが多くとても賑やかです。 ○今年度は、家族・ご本人との話し合いの元 看取りケアを2名行いました。 ○地域の中の身近な施設になるために、定期的に夕食会・バザーを開催しています。昨年度は 公民館で学習会を開催し、多くの方の参加を頂きました。次のステップとして 施設内で 月に2回『のどかカフェ』を開催する準備を進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者6名とこじんまりとしたホームが2階に開所して5年目を迎え、福祉センター主催のバザーや夕食会も恒例となり、日頃から地域の方に声をかけられる職員も多い。1階の小規模からの入居も多く、息子のため、また入居している母のために長生きしたいと話す本人や家族の意向を十分に理解しながら支援したり、治療薬の中止を希望する入居者の意向を重視し、状況に応じた支援を実践している。そして、入居者からは、「好きなように食べるのが一番」、「もっと交流する機会をつくるように」とアドバイスや意見をもらっている。また、昨年は2名の看取りに関わり、1名の方は最後には訪問診療を手で制し、「もういい」と意志表示されるなど、入居者が率直な意見を表出できるように日々支援し、理念の「共に過ごし学び支えあう」を具現化している。今月から、のどかカフェを開催予定で、地域により密着したサービスの提供が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グリーンコープグループホーム那珂川・和**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○職員 全員グリーンコープの組合員です。 ○働き方をワーカーズとし昨年労働協同組合としました。 ○理念については、職場会議で読みあわせをすると同時に日常的に話をしています。	「共に過ごし学び支え合う」との理念の実践に日々取り組んでいる。職員自らが、働く時間数や雇用形態を選択できる法人のありかたが、入居者が率直な意見を表出できる場や機会、関係づくりにつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域の自治会に加入し、掃除・お祭りなどに参加しています。 ○事業所の行事や利用さんも交えた夕食会を定期的に開催しています。	福祉センターとして主催しているバザーや夕食会は恒例となり、日頃から地域の方に「どこかで見た顔やね」と声をかけられる職員も多い。先月開催を予定していたのどかカフェは、インフルエンザに罹患した入居者があり、今月に延期されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○今年度は 町主催の認知症サポーター要請講座を地域・家族の方広く声かけし職員と共に2回開催しました。家族・地域の方6名の参加がありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○同じ施設内の小規模と一緒に運営推進会議を開催しています。 ○昨年2月 運営推進会議の方をパネラーに学習会を開催し、地域・家族・行政120名ほどの参加がありました。	知見者として出席する他事業所の施設長からのアドバイスで始まった事例報告が、継続している。管理者が茶話会の傾向が強くなりつつあると評価するほど、参加メンバーが固定し、参加が楽しみとの意見があるが、今後の会の運営については、検討していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○運営推進会議のメンバーに介護課担当・包括支援センター職員が入っているため、密に情報交換が出来ます ○町主催の協議会の施設部会に加入し今年度は救急救命講座も参加しました。	関係部署からも期待され、月2回ののどかカフェを今月から開催予定である。葬会式には関係部署から「運営推進会議のメンバーとして出席したい」との希望があった。地域包括支援センターからの紹介で、1階の小規模多機能サービスを利用後に、ホームに入居する方も多く、日頃から良好な連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○玄関・部屋の施錠はしていません。 ○毎月の会議時、離床マット・ベットの排泄の必要性の確認を行っています。 ○身体拘束マニュアルに沿って読みあわせを行っています。	夜間、衣服を脱いだり放尿をするなどのせん妄状態になる入居者もあり、家族に了承を得て離床マットの活用や紙パンツを使用しているが、1ヶ月毎に適切な支援をしているかどうかを、話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	○高齢者虐待防止マニュアルを作成し読みあわせを行い研修しています。 ○夜勤時の職員のストレス防止に努めています。 ○人権研修への参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○成年後見人を利用してある方が1名いらっしゃいます。家族・後見人・主治医との情報交換を密に行い 緊急時の対応・連絡体制など確認しています。	キーパーソンの家族が変わり、その家族から自らの地域のグループホームへの転居を提案され、管理者は後見人にその旨を連絡している。その後、家族と後見人が話し合いをされ、このままここでとの返事があった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○契約時管理者・計画作成担当者が 小規模との違いなど丁寧に説明しています。 ○今年度より入居一時金を敷金とする変更の説明をし 了解の書名・印を頂きました。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○事務所の入り口に意見箱を置いています。 ○運営推進会議・家族のあつまりなど開催時、家族の意見を話しやすいようにしています。会議の報告を職場会議・ミーティングで行っています。	週1～2回、訪問する家族も多く、その折に家族から意見や要望を伺っている。小規模からの入居も多く、なかには妻を亡くした息子のため、また入居している母のために長生きしたいと話す家族の意向を十分に理解しながら、支援を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月の職場会議・リーダー会議で業務改善について意見交換をしています。 ○毎年 アンケートを取り、個人面談を行い意見・要望を聞くようにしています。	職場会議、リーダー会議、本部会議と職員の意見を反映できる体制が構築されている。職員の提案で、L字型の手すりの活用や、居室に籠る入居者に窓から見える景色を楽しめるような声かけをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○本部会議に管理者が参加し事業所の状況報告 をします ○福利厚生の充実・処遇改善等に努めます。 ○労働協同組合の総会に多くの職員が参加し意見交換を行います。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○毎年、労働協同組合『きらめき』全体で職員募集チラシを作成し、募集を行っています。 ○問い合わせに対しては面接を行い試用期間を経て採用しています。 ○働き方については、採用時・面接時に聞き取りを行いライフスタイルに合わせた働き方を尊重しています。	40～60歳代の職員が就労し、介護福祉士の資格を持つ職員が多く、全員が資格を取得できるように支援している。職員の良いチームワークで、ライフスタイルに合わせて就労でき、離職がほとんどない職場となっている。今回、管理者研修や管理者の人事異動が計画され、初心にかえて学ぶ機会にしたいと管理者は話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○人権は 基本なので毎年研修を行っています。不参加者は職場会議で共有しています。 ○職員・利用者の気づきに対し、職場会議で接遇・言葉遣いなど再確認をしています。	朝のミーティングで、「大声を出さない」や、「本人はどうしたいのか」について、話し合いをしている。オールグリーンコープ会議では、社会福祉法人が何を目指していたのかや、地域福祉の目的は何かをテーマとして掲げられた。	社会福祉法人の目指す方向性をより具体的に提示されることで、さらなる人権を尊重するケアの実践を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○研修に関しては、年間計画に沿って行っています。○今年は 茂木健一郎さんのコミュニケーション術・中島知夏子さんの食に関する研修・福岡の施設職員研修では、各事業所の看取りの事例発表を行いました。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	○市内の施設系の協議会の研修に参加しています ○福岡の施設の管理者会議は毎月あります。 ○オールグリーンコープの管理者会議が年3回あります。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○身体関係の構築が基本だと思います。最初の段階は本人の話聞くことが中心で、今までの生活習慣を尊重しながら対応しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○最近はやがど小規模からの移行の方が多く、在宅生活からの関係が構築されている為、比較的スムーズに信頼関係が出来上がります。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○昨年入所された男性は、小規模から娘が在住の他県の施設入居が決まっていたが、、本人拒否の拒否により、包括とも相談の上、グループホームの体験入居からそのまま入居になりました。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○『共に学び支えあう』を基本にアセスメントでその人の今までの生活を知り、テレビを見ながら一緒に笑ったり泣いたり 楽しい時を過ごすようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○利用者も家族も職員も皆地域の一員である事の位置づけを、共有できるようにしています。 ○家族が日頃から意見要望が言える環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○昨年入所された男性は、行きつけの理容室・喫茶店・うどん屋・自宅送迎したり、職員ボランティアが同行したりしています。 ○友人からの電話に事業所携帯からかけ直しをしたりもしています。	地域活動を一緒にされてきた方の訪問を受け、談笑したり玄関まで送って行かれた入居者の姿に、職員は馴染みの人との関わりの重要性を実感している。また、席順等をきっかけに、「もっと交流する機会を作るように」と意見を出された入居者もあり、職員は納得したと話している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○唯一男性の方は他入居者を気遣い良くお土産を買われます。 ○自室に引きこもりがちの女性にボランティアや行事のお誘いをすると短時間ですが参加して頂けました。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○小規模から移行の利用者家族は、入院されてからもよく遊びや相談に見えます。 ○その後の関係づくりについて、積極的には取り組んでいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○その人が今までどのような暮らしをしていたかアセスメントを充分・本人・家族から取るように努めています。 ○テレビを希望される方が3名あり自室にテレビを設置しています。	基本情報やアセスメントシートに、把握した思いや意向を記載している。朝のミーティングや職場会議等で、情報を共有し、さらなる思いや意向の把握に努めている。	センター方式アセスメントの24時間生活変化シート等を活用して、夜間不眠やせん妄のある入居者の様子や場面、影響等のデータの集積や分析で、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○ライフサポートプランを導入しています。 ○夜勤時 フロアで テレビを見ながら昔話に花を咲かせてあります。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○訪問診療利用の方が3名、かかりつけ医の往診の方が1名・通院同行の方が2名で診療の際身体状況の把握に努めています。 1Fの小規模と一緒に過ごす事もできますが2Fで過ごされる方もあります。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○1Fの小規模からの移行の方が5名で利用者・家族・職員も自然な形で受け入れができています。 ○家族の面会・職場会議の時などに今何が本人のニーズなのか話をしています。	ライフサポートプラン様式で介護計画を作成し、ケース会議で話し合いながら、計画の見直しをしている。泌尿器疾患の治療薬の中止を希望する入居者の意向を重視した計画が立案され、状況に応じた支援が実践されている。現在、夜間不眠やせん妄に処方された内服薬の影響について、職員間で情報を共有しながら、その方らしい生活支援とは何かについて話し合いを重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○その日のリーダーを決め記録の責任者としています。○個人記録など施設の管理者会議などで意見交換し、介護計画に沿った記録が出来るように努めています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○小規模との一体運営や小規模からの移行の方が多く、支援については 在宅生活を継続する為元々柔軟に行っており、その延長線上でサービスを行っています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○男性利用者の希望で、お墓参り・友人宅訪問・戦没者慰霊祭・文化祭など地域の方の協力を得ながら行うように努めています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○看取りも視野に入れた利用者に対しては今後の対応も含め訪問診療のお話をする方もありますが、最後までお付き合いしますと 携帯番号を教えてください かかりつけ医の先生も2人いらっしゃいます。	日頃から適切な情報交換で、医療との連携を十分に取っている。夜間に胸痛を訴えた入居者は、連絡した主治医から指示された内服薬で症状が緩和したが、次の日主治医の往診を受け、心身の状況に応じた内服薬が処方されている。他県在住の家族が近々来所する予定で、現状の説明や今後について話し合う予定である。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○職員全員 労働協同組員ですので、元来縦の関係はなく 役割分担です。相互の報告・連絡・相談は出来ています。 ○夜勤時・緊急時看護師に相談できるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入退院時は 必ず職員が同行しています。又退院については、必ずカンファレンスに参加し情報交換を行っています。 ○協力病院の『那珂川カフェ』に参加し医療との連携を学んで行きたいと考えます。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○入所時に、左記について話をし その時々状況に合わせて話し合いをしています。 ○今年度は2人 看取り介護させて頂きました。 ○グリーンコープの福岡県の施設研修に、各事業所の看取りについて事例発表をしました。	昨年6月2名の看取りを支援している。5月の保育園見学には、その2名も参加され、心地よい時間を皆と過ごされた。1名は前日に軽く食事を摂られ、最後は訪問診療を手で制し、「もういい」と意志表示された。他の1名は、一旦他施設入所したものの再入居となり、大腿骨や股関節の骨折などで、体力や食欲が低下し、最後の夜は家族と一緒に過ごされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○研修計画に沿って研修をおこなっています。○今年度は、那珂川町施設事業者連絡会の救命救急の研修に参加しました。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○上記記載 ○今年度は 那珂川町全体の避難誘導訓練に該当地区の一員として参加します。(車椅子の利用者2~3名)	町の訓練の日は寒かったため、職員のみが参加している。地域からも要望もあり、福祉センターの利便性を考慮して、区からの福祉センターを避難場所にとの要請書を待っているところである。消防署から、自然発火を防ぐために、ロフトの荷物の整理や居室の壁に掛かっている肖像画の覆いは不燃性の物を使用するようにと、実地指導を受けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○接遇・人権研修を毎年開催 今年度は臨床心理士の吉村春生さんの『心が風邪を引く時』の演題でした。毎年接遇・人権は基本ですので1人の利用者さんへの接し方など意見交換を行っています	傾眠傾向で、昼食時に箸を取っても食材を掴めず、口まで運べない入居者があり、職員が食事を介助しようとしたところ、他の入居者から「好きなように食べるのが一番」とアドバイスを受けている。覚醒されるに従い、自力で少しずつ摂取されたが、人格を尊重するケアとは何かを、職員間で共有したいと管理者は話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○その人の個性を引き出せる施設となるためアセスメント・ケース会議などで意見交換。又今年度食事の研修を受け 湯のみ・コップをご自宅から持って頂きました。好評です。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○テレビを部屋に置かれた方が3名いらっしゃいます。○家庭のご事情で 仏壇を部屋に置かれている方がいらっしゃいます。○新聞を取られている方が1名 お部屋で食事される方もあります。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○ご自分で選んで着替えられる方が2名いらっしゃいます。○化粧をご自分で夜昼される方が1名いらっしゃいます。○馴染みの床屋に行かれる方が1名 他の方は有償ボランティアの美容師を利用してあります。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○嗜好をお聞きし、食事のメニューを変えたりしています。○コップは自身の物で男性で戦友会のコップをいくつも準備される方があります ○新しく入所された女性は元・家政科の先生で色々ご指導いただきます。	朝食と夕食は2階の共用空間で、昼食は1階で小規模の利用者と一緒に摂っている。各々のマイコップでお茶をいただき、それぞれのペースでの食事を支援している。食後はコーヒーも出され、ゆっくりした時間を過ごされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○グリーンコープの食材を中心に、毎日2名の食担でセンターの食事を作っています。好評です。 ○中島知夏子さんの食の研修を受け 水分は お茶・コーヒー・ゼリー・お抹茶入り緑茶など準備しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○毎年訪問歯科の検診を受け、必要な人は治療・定期的なケアを行っています。○昼食前には口腔体操を行い、就寝前は入れ歯を外し清掃を行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	○ご自分でトイレに行かれる方2名・尿意・便意がある方2名 定期的に誘導している方2名です。○男性利用者 布パンツでしたが頻尿と尿漏れで不穩になられ受診し病気が判明し紙パンツに移行しました。	インフルエンザに罹患後、夜間頻尿で失禁することが多かった入居者があり、受診を支援している。本人の意向を重視した服薬支援をしながら、職員は本人の失禁する辛さや憤りを受け止め、紙パンツを自分で交換できるように声かけで誘導している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○排便記録は個人記録で把握しています。○利用者個別の排便リズムを把握し食事・水分摂取量など注意すると同時に、主治医に相談しお薬を処方して頂いています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	○入浴時はお声かけし、入って頂いています。○高齢な方が多く、回数的には 1から2回程度ですが状況に合わせて入って頂いています。	週1～2回、声かけの折は入浴を躊躇する入居者もいるが、本人の希望を聞きながら支援している。週〇回は入浴を支援せねばならないとの職員の意識を、変えつつあると管理者は話している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○起床・就寝時間は、決めていません。昼間は皆さん、起きて頂き、ご自由にされています。1Fの小規模のフロアで過ごされる方もあります。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○受診時には、必ず付き添い、身体状態・服薬の把握に努め 看護師が整理・管理を行い、ケース会議時、作用・副作用の学習をしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○男性の方は 自分が他の女性の面倒を見ていると思ってあります。○1人の女性は、100歳の方の事を気にかけてくださっています。○一人の女性は、妻をなくした息子のために長生きをされると言われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○100歳の女性は息子2人と定期的に外食されます。○男性の利用者は、希望に沿いながら外出を行っています。○引きこもりの女性は毎月介護タクシーで息子と通院が楽しみです。○小規模と一緒にドライブに行かれる方もあります。	昼食時は傾眠傾向だった入居者も、他入居者と一緒に小規模で実施しているドライブに出かけている。この入居者は、つい最近まで職員が同行して、馴染みの喫茶店でうどんを食べたり、帰りに女性入居者のためにケーキをお土産に購入したり、行きつけの理髪店などに出かけていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○ご自分でお金を持ってある方が3名いらっしゃいます。○外出時お買い物をされたり、喫茶店でお茶を飲まれたりされます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○電話をもってある方はおられません。○お電話があった時は、こちらから取次ぎを行っています。○郵便物転送の方があり干物が和に届きます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○落ち着いた雰囲気を出すよう努めています。季節感が出るようなお花や飾り物を置き話題づくりに努めます。 ○臭いにも注意を払い、換気や原因の除去に努めます。	入居者6名とこじんまりとしたホームが2階に開所し、1階の小規模からの入居者が5名もあるため、日中は1階の共用空間で食事を楽しむ入居者が多い。2階の共用空間のベランダは、洗濯物や布団が干され、天井が吹き抜けのために開放的である。インフルエンザの発症もあり、窓を開けて換気をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○新しい利用者さんが入られた時や状況に合わせて模様替えを良くします。○居間での座る場所を決める事は大変で 利用者さんを交えて話し合いをして決めたりもします。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○居室は、本人・ご家族のご希望で荷物を配置されます。○今年入居された方お二人は、個性的で 男性は軍隊様式・女性は ややお嬢様様式で岩崎ちひろのカレンダーが印象的です。	町会議員だった入居者の居室には、国からの賞状や勲章、メダルが飾られ、仏壇も置かれている。誰でも見られるように、廊下に100歳記念の賞状が飾られている入居者もある。家族が居室内を整理し、洋服掛けの下のボックスには衣服が良く見えるように並べられている居室もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○自立支援の立場から、生活リハビリを大切にしています。○利用者の気持ちを聞く。感じる。予想する。 共に自分らしく・楽しく・のんびり・余生を過ごして頂きたいと思っています。		